

目次

インターネット1000校プロジェクトの情報.....中山和彦
 ウィンドウズ95時代のスタディシリーズ(後編)
 ウィンドウズ95におけるスタディの操作環境...余田義彦
 1.プログラムの起動方法 2.メニュー構成の概略
 3.児童用コンピュータのメニュー構成(詳細)
 4.先生用コンピュータのメニュー構成(詳細)
 DOS版のスタディシリーズをウィンドウズ95で動かす方法
 1.動作環境 2.設定手順 3.各ソフトの起動の設定
 お知らせ
 スタディ短期研修会開催 スタディ夏期研修会について



インターネット1000校プロジェクトの情報 中山和彦

以前からうわさがあり、4月1日付けの朝日新聞の記事の中にも、「1000校プロジェクト」という名称でのっていましたが、3月27日付けで『学校におけるネットワークの活用に向けての取組について - NTT「こねっと・プラン」との提携 -』として、文部省から発表されました。

この連携は、学校における高度情報通信ネットワークの活用と情報教育の推進のために、文部省とNTTが協力して行うためです。NTTは社会貢献事業として、学校におけるISDNの利用環境の整備を優先的に行うために、平成8年度に全国の小・中・高等学校、特殊教育諸学校から約1000校に対し、現物寄付としてISDNに接続するための施設と、ソフト、通信料のために30万円を現金寄付することになっています。

募集は、各都道府県教育委員会を通じて行うことになっていますので、興味のある学校は準備をされることをお勧めいたします。

ISDNはNTTがデジタル通信のために設置しつつある通信網で、やがては全国をカバーすることになっていますが、まだ伸び悩みの状況です。ISDNには、最高で1秒に1.5Mビットの情報まで送ることが出来るものもありますが、インターネットで動画をみるには不十分ですし、料金が相当かかります。

学校からインターネットと接続するためには、近くにある接続業者(プロバイダ)に接続して、そこからインターネットと接続することになります。ISDN料金の他に、プロバイダにも接続料金を払わなければなりませんので、30万円ほどの位使えるかはそれぞれの学校の状況で相当にかわってくると思

ます。また30万円が1年度限りなのか、後年度も寄付されるのかは不明です。恐らくは1年限りでISDNで接続する学校を増やしていこうという方策をとるのではないかとと思われますので、その点について考慮しておく必要があるかも知れません。

これからもいろいろな情報を入手しましたら、お知らせしますが、疑問のある先生方には可能な限りのご協力をしたいと思っていますので、遠慮なくECONews係までご連絡下さい。



ウィンドウズ95時代のスタディシリーズ(後編)

ウィンドウズ95におけるスタディの操作環境

余田義彦

ウィンドウズ95では、画面構成や操作法が一新されました。それによって、使いやすくなっているのですが、学校での利用となると問題になりそうな部分が出てきています。たとえば、ファイルの複写や削除が簡単に出来るようになりました。これは一般に歓迎すべきことですが、子ども達が悪意なしにファイルを消してしまう可能性が高くなりました。また、95では、ウィンドウを新規に作成したり、削除、開閉、サイズ変更することが簡単に出来ます。そのため、使っているうちに、画面の内容が機械ごとに変わってしまい、一斉指導が難しくなったり、子どもが混乱してしまう可能性も出てきました。

95を搭載したコンピュータを学校へ導入する場合、操作環境をどのようにするか、よほどよく考えて導入しないと、たいへんなことになりそうです。そこで、参考までに、つくば市の小学校が95の操作環境をどのようにすることにしたか、紹介したいと思います。

1.プログラムの起動方法

ウィンドウズ95でプログラムを動かすには、大まかに言って次の3つの方法があります。

(1) 『スタートメニュー』からたどっていく。

テレビのCMで高倉健が「簡単じゃねえか」と呟きながら、やっている方法です。具体的には、画面左下にある『スタートメニュー』をマウスで選び、そこからメニューをたどっていき、プログラムを選びます。

(2) プログラムのアイコンをダブルクリックする。

プログラムのアイコン(絵)をマウスで選び、ダブルクリック(マウスのボタンを続けて2回押す)します。この方法は、ある程度、熟達した人が個人専用

でコンピュータを使っているときには便利です。しかし、ちょっとした操作でアイコンの位置が変わってしまいます。そのため、学校のように同じパソコンを何人かが使う環境では、誰かがアイコンの配置を変えてしまうと、他の者が戸惑うことになります。

(3) メニューソフトを使う。

メーカーやソフト会社が、自社製品用にメニューソフト（ランチャーともいいます）を用意している場合があります。それを使うのも一つの方法です。ただ、特殊な環境になりますので、別のところでコンピュータを使おうとすると操作環境が違っており戸惑うようなことがおこります。

つくば市の小学校の場合、スタディ関連のソフトについては、(1)の方法でソフトを起動するようにしました。そして、『スタートメニュー』を次で紹介するようにカスタマイズし、子ども達やコンピュータに詳しくない先生でも、すぐに使い始められるようにしました。

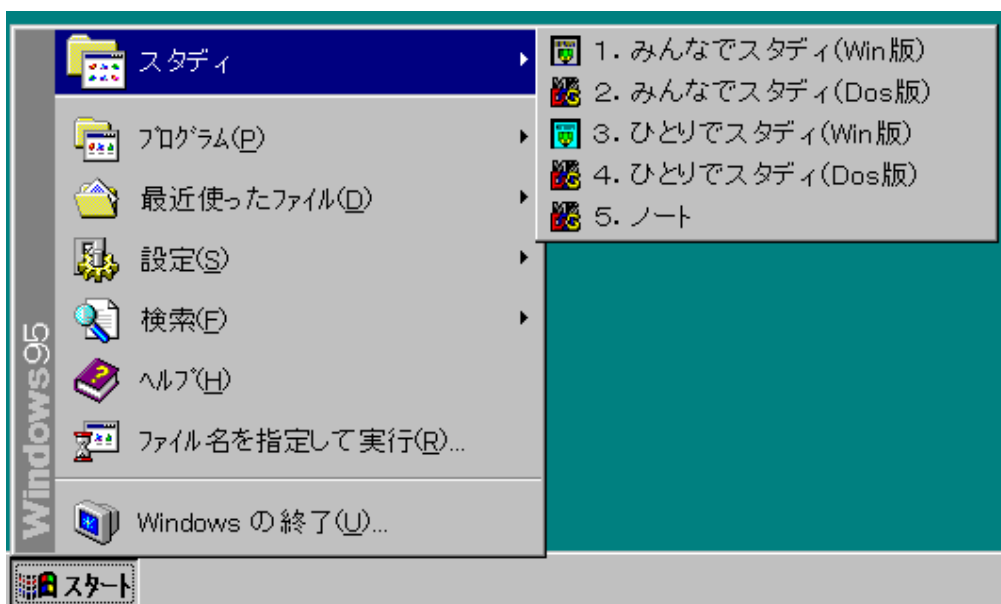
2. メニュー構成の概略

児童用コンピュータ、先生用コンピュータともに、スタートメニューの構成を次のようにします。

まず、図1のように、スタートメニューの一番上に、『スタディ』と書かれたメニューを用意します。そして、そこには、基本的なプログラムだけを入れておき、ふだんは、それを選ぶだけで使えるようにしておきます。

参考までに書いておきますと、スタートメニューの一番上に『スタディ』というフォルダーを登録するには、C:\¥Windows¥スタートメニューの中に、『スタディ』というフォルダーを作成します。そして、その中にプログラムのショートカットを入れていくようにします。

図1.『スタディ』メニュー



メニュー項目とプログラムの対応関係

1. みんなでスタディ(Win版)
タイムのネットワーク Win版
2. みんなでスタディ(Dos版)
タイムのネットワーク Dos版
3. ひとりでスタディ(Win版)
タイムのスタンドアロン Win版
4. ひとりでスタディ(Dos版)
タイムのスタンドアロン版
5. ノート
スタディノート

次に、『プログラム』と書かれたメニューの中にも、『スタディ(子ども用)』、『スタディ(先生用)』というメニューを設けます。そして、それを選んでも、スタディのプログラムが使えるようにしておきます。『スタディ(子ども用)』には、『スタディ』に入れなかったプログラムも入れておき、クラブや発展学習で使えるようにしておきます。『スタディ(先生用)』は、先生方の研修用メニューです。

3. 児童用コンピュータのメニュー構成(詳細)

『スタディ』

スタートメニューで『スタディ』と書かれたメニューの構成は、図1のようになっています。

メニューの先頭に数字をつけているのは、項目を50音順でなく、使いたい順にならべるためと、先生が「スタディの 番を選びなさい」というかたちで指導できるようにするためです。このようにしておけば、児童も覚えやすく、すぐに自分で操作できるようになります。

『スタディ(子ども用)』『スタディ(先生用)』

『プログラム』の中の『スタディ(子ども用)』『スタディ(先生用)』メニューの構成は、それぞれ図2、図3のようにしています。

これらのメニューの設定は、スタートメニューの中の『設定』から『タスクバー』を選ぶことで行えます。

4. 先生用コンピュータのメニュー構成(詳細)

児童用パソコンと基本的な構成は同じですが、スタディネットが加わります。

『スタディ』

次のように、1番と2番のメニューが変わります。

1. ネット(Win版)... C A I 授業用
2. ネット(Dos版)... C A I 授業用
3. 一人でスタディ(Win版)
4. 一人でスタディ(Dos版)
5. ノート

このようにしておく、児童側のメニューと対応がとれて、「子どもに1番を選ばせたときは、自分も1番を選ぶ。2番を選ばせたときは、自分も2番を選ぶ。」というようにできます。

なお、参考までに書いておきますと、タイムでWindows版を使う場合は、ネットもWindows版を使わなければなりません。また、タイムでDOS版を使う場合は、ネットもDOS版を使わなければなりません(N

o . 4 5 の P 3 参 照)

『スタディ(子ども用)』『スタディ(先生用)』

『スタディ(子ども用)』の構成は、児童用パソコンと同じです。『スタディ(先生用)』の構成は、『スタディ』同様、

1番と2番が次のように変わります。

1. ネット(Win版)... C A I 授業用
2. ネット(Dos版)... C A I 授業用

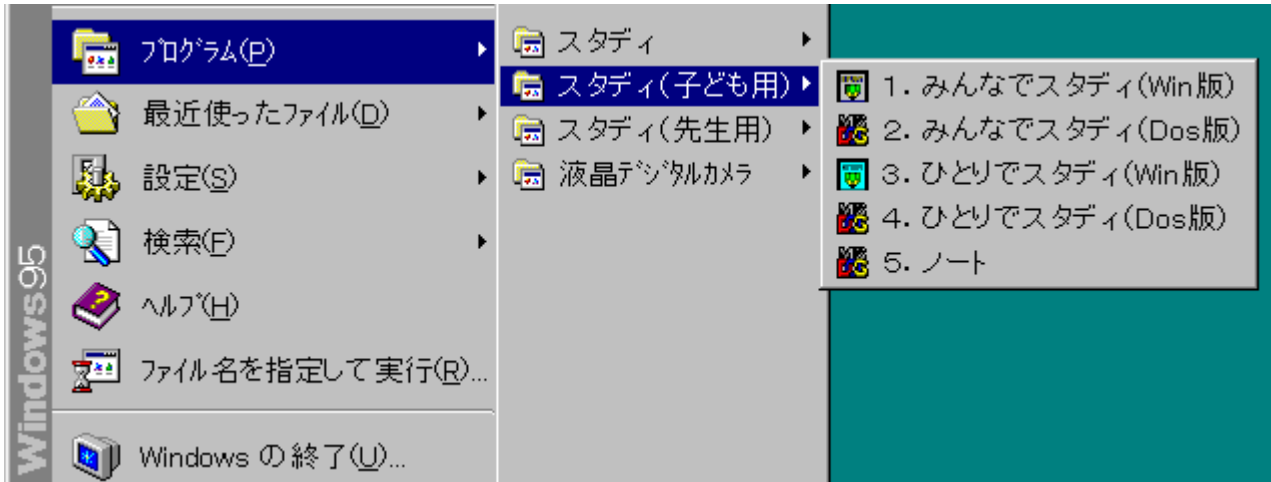


図2. プログラムメニューの中の『スタディ(子ども用)』メニュー

注. 『スタディ(子ども用)』メニューは、先生用コンピュータも同じ構成です。



DOS版のスタディシリーズをウィンドウズ95で動かす方法

DOS版のスタディシリーズも、次のようにすれば、ウィンドウズ95で動かすことができます。

C:¥> 1. 動作環境

Windows95のDOS環境には、MS-DOSモードとMS-DOS VM(仮想マシン)があります。MS-DOSモードとは、MS-DOS6.2Vを起動した状態に相当します。MS-DOS VMとは、Windows3.1のDOS窓を実行した状態に相当します。

DOS版スタディシリーズは、MS-DOSモードで利用可能です。ただし、機種により違いがあると思われるので、動作確認が必要です。MS-DOS VMでのスタディシリーズの動作保証はできません。

C:¥> 2. 設定手順

(1) MS-DOSモードにする

Windows95を起動し、「スタート」「Windowsの終了」をクリックし、「MS-DOSモードでコンピュータを再起動する」を指定し、[はい]をクリックします。

(2) DOS版スタディシリーズをインストール

MS-DOSモードでインストール(INSTA.EXE, INSTE.EXE, INSTN.EXE, INSTNE.EXE, INSTNU.EXE)を実行します。インストール終了後、EXITで、Windows95に戻ります。

(3) 起動の設定

Windows95からDOS版スタディシリーズを起動し、終了するとWindows95へ戻るようにするため、次で紹介する設定を行います。

C:¥> 3. 各ソフトの起動の設定

スタディライター、スタンドアロン型スタディタイム

(1) スタディライター、スタンドアロン型スタディタイムの起動バッチのショートカットを作成します。

(2) 作成したショートカットのプロパティを変更します。

(3) [プログラム]画面の[詳細設定]をクリックし、[MS-DOSモード]をクリックし、プロパティ設定画面を終了します。

スタディライター、スタディタイムのショートカットをダブルクリックすると、それぞれが起動します。スタディライター、スタディタイムを終了すると、Windows95が起動します。

DOS/V用のDOS版スタディライター(V2.0D以前)

上記の作業に加え、以下の作業を行ってください。

(1) ANKKEY.COMをスタディライターオーサ1のマスターディスクからスタディライターをインストールしたディレクトリにコピーし、AUT.BATを修正してください。

ECHO OFF
LH MOUSE
ANKKEY 追加行
BIOS
GRAX
CAIDRV
MENU
CAIDRV OFF
REMGRA
BIOS OFF
ANKKEY OFF 追加行
MOUSE OFF

スタディネット

(1) スタディネットの起動バッチのショートカットを作成します。

(2) 作成したショートカットのプロパティを変更します。

(3) [プログラム]画面の[詳細設定]をクリックし、[MS-DOSモード]をクリックします。次に、"新しいMS-DOS設定を指定する"を指定し、[設定]をクリックし、オプション設定画面でそのまま[OK]をクリックします。

(4) [MS-DOSモード用 CONFIG.SYS ファイル]の内容に、RAMDRIVE.SYSの設定を追加します。

例 DEVICEHIGH=C:¥WIN95¥RAMDRIVE.SYS 1024 /E

(5) [MS-DOSモード用 AUTOEXEC.BAT ファイル]のTMPの内容を変更します。

例 SET TMP=C:¥WIN95¥TEMP

SET TMP=D: (RAMディスクがDの場合)

(6) [MS-DOSモード用 AUTOEXEC.BAT ファイル]の次の行を削除します。

LoadHigh C:¥WIN95¥COMMAND¥NLSFUNK.EXE C:
¥WIN95¥COMMAND¥COUNTRY.SYS
C:¥WIN95¥COMMAND¥DOSIME

(7) 追加変更後、プロパティ設定画面を終了します。

スタディネットのショートカットをダブルクリックすると、スタディネットが起動します。そして、スタディネットが終了すると、Windows95が起動します。

ネットワーク型スタディタイム

(1) bu.exeを入手します。

ネットワーク型スタディタイムを起動するSDT.BATをショートカットにした場合、授業終了で生徒機がリセットされ、コンピュータが再起動しても、Windows95が起動せずにネットワーク型スタディタイムが起動してしまいます。そして、2度とWindows95を使用できなくなってしまいます。そこで、bu.exeというプログラムを使い、ネットワーク型スタディタイムを起動したら、スタディタイムを起動するかWindows95に戻るかを選択できるようにしま

す。bu.exeの入手については、シャープシステムプロダクトへお問い合わせ下さい。bu.exeは、STUDY.BATとキー入力プログラムから構成されています。STUDY.BATは、次のディレクトリ構造で動作するようになっています。

STUDY.BAT

BU¥ キー入力プログラム

SNE¥ スタディタイム(ネットワーク型)

(2) STUDY.BATのショートカットを作成します。

(3) 作成したショートカットのプロパティをスタディネットの場合と同様に変更します。

1を入力すると、ネットワーク型スタディタイムが起動します。また、0を入力すると、Windows95に戻ります。

お知らせ

スタディ短期研修会開催

下記のとおりスタディ短期研修会を開催いたします。参加を希望される方は、ECO Newsまでご連絡下さい。

日時 1996年5月29日(水)9時

～31日(金)16時

場所 筑波大学学術情報処理センター

対象 スタディシリーズの利用についての初心者

研修内容 目標分析とコースウェア作成の基礎

講師 筑波大学学術情報処理センター

教授 中山和彦

東京家政学院筑波女子大学短期大学部

助教授 余田義彦他

スタディ夏期研修会について

1996年の夏休み期間中に地域でスタディ研修会の開催を予定されている学校・教育委員会・教育センターで、講師の派遣等を希望される場合は、早めに中山研究室(Tel.0298-53-2450)または、ECO Newsまでご連絡下さい。